

## 第4節 亀山構内の立会調査

### 教育学部附属山口中学校屋内消火栓設備改修に伴う立会調査

調査地区 亀山構内

調査期間 昭和63年12月19日、平成元年2月6日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 約35㎡

調査結果 12月には、ポンプ室新営のための現地表面（アスファルト）から約1.7mまでの掘削に立会った。現地表下70cmまでが埋め土（攪乱土）であったが、昭和61年度調査時の遺物包含層である第5トレンチ第4層と同一層と見られる黒褐色粘質土がブロック状に堆積しており、若干の土師器片が出土した。以下、16の層に分層できるが、層の堆積は不整合で、粘質土・砂質土が同一レベルで見られることから、河川跡あるいは沼であったかと思われる。なお、現地表下120cm以下に堆積する第14層：灰色粘土には、多量の植物遺体が含まれていた。

2月には、現地表面から、約80cmの掘削を行う配管埋設工事に立会った。実際の調査部分は、既往の調査地を基に限定した。即ち、ポンプ室からまっすぐ南へ通る管路とそれと直交して東へ向かい体育館脇にぶつかる路線である。このうち、遺構・遺物を発見したのは

東西管路内であり、南北管路においては埋め土の範囲内であった。埋め土直下、現地表下32cmで土師器、磁器、黒曜石の剥片を含む包含層が一部確認された。既往の調査時の包含層とは、粒土・色調から区別される可能性が高い。また、河川跡あるいは沼跡が東西管路の西側部分約17mにわたって確認された。以東、工事掘削深度内は攪乱を受けていた。遺構の土質は、0.3cm以下の礫・石英片を多量に含む青色～橙色の砂礫層である。また一部には河川跡あるいは、沼跡の埋土と思われる不純物をほとんど含まないオーリーブ

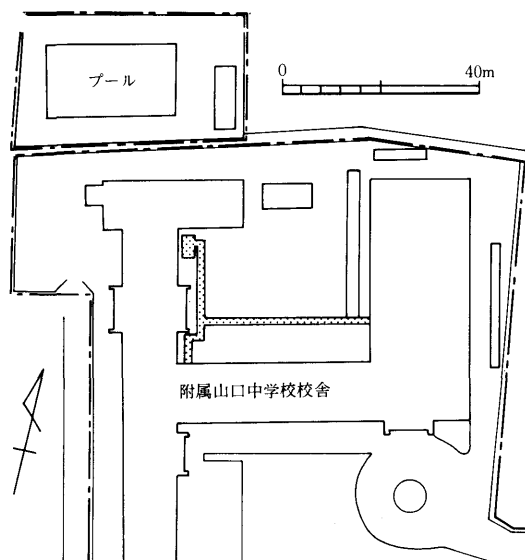


Fig. 14 調査区位置図

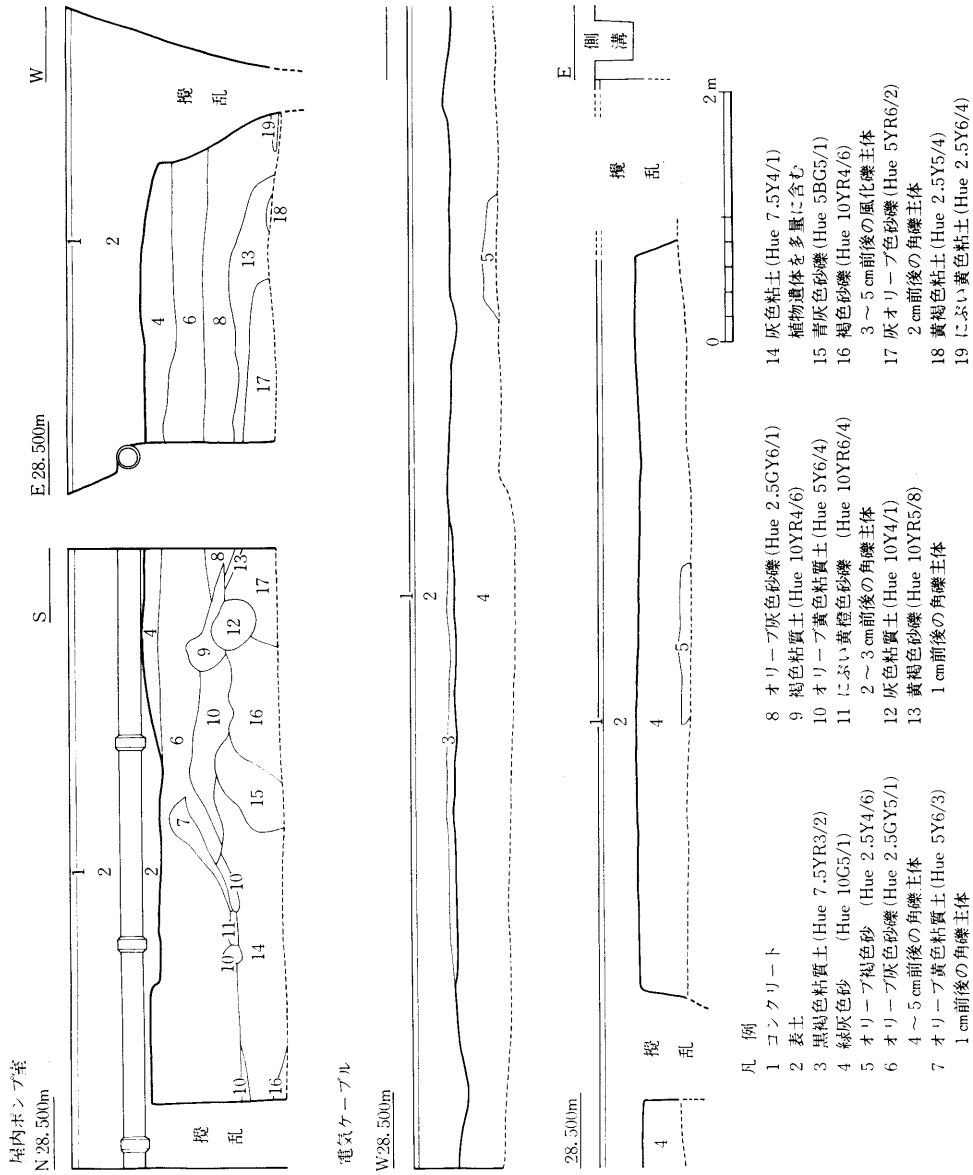


Fig. 15 土層断面図

褐色砂質土が堆積しており、より下位に位置するものであろう。即ち、当地の基本層序は、アスファルト、埋め土、遺物包含層、河川跡あるいは沼の埋土（2層）ということになる。

なお、工事による掘削は現地表下90cmまでで、以下の土層は確認していない。（木村）